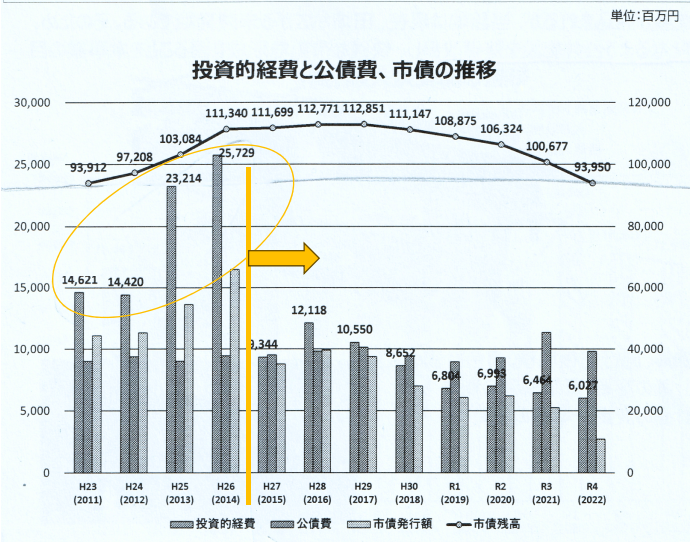


# 北陸新幹線金沢開通に合わせた投資

平成22年～平成28年の投資的経費の総額は1,119億円



図表 1-3-2 財政健全化緊急プログラムの概要

## 財政健全化緊急プログラム（概要）

【平成30年2月策定】

### 現状

- 小中学校の耐震化、北陸新幹線開通事業、高岡駅周辺再整備などの投資的事業を集中的に実施
- 市債残高は、2016(平成28)年度末で1,128億円〔市債発行による公債費は約10億円(H22-28比較)の増加〕
- 職員数の適正化などにより、人件費を約△18億円(H22-28比較)圧縮
- 少子高齢化の進行などにより、扶助費(市の負担)は約13億円(H22-28比較)増加
- 市税や交付税等(一般財源)は、年平均約417億円で推移(H22-28)
- 2016(平成28)年度は、行政改革推進債の発行等に加え、財政調整基金等を約17億円取り崩して対応

### 今後の運営

約40億円の構造的な「歳出超過」を解消するため、毎年度、臨時的な財源対策に努めながら、前年度比で約8億円程度の改善を図る。

### 【目標】

収支均衡した財政構造(2023年度当初予算編成時までに構造的な約40億円の歳出超過の解消)

### 【実施期間】

2018(平成30)年度から2022年度まで【5カ年】

#### ①投資的経費の抑制(目標額:公債費で△3億円)

- ・投資的経費の抑制により、事業債の発行額を年間45億円以内(総額で年間75億円以内)とし、公債費の大幅な抑制を図る。

#### ②公債費の平準化(目標額:△7億円)

- ・過去に借り入れた市債の一部を借換えし、公債費の平準化を図る。

#### ③公共(的)施設管理コストの縮減(目標額:△6億円)

- ・公共施設再編計画に掲げた公共施設の再編に速やかに取り組む。
- ・市が運営に深く関与している公共的施設についても、積極的に整理・統合を進める。

#### ④事務事業の見直し(目標額:△15億円)

- ・文書費、旅費、消耗品費等の事務的経費の見直し
- ・委託事業など、その他事務事業の見直し
- ・補助金等の見直し
- ・繰出金の見直し

#### ⑤総人件費の圧縮(目標額:△5億円)

- ・組織体制の見直しと職員の適正配置(目標数:70人超削減)

- ・臨時的な人件費の削減措置

#### ⑥歳入の確保(目標額:＋4億円)

- ・市税徴収率の向上等と税収確保策の推進
- ・受益者負担の原則の徹底と使用料・手数料の適正化
- ・その他収益の確保(ふるさと納税、広告料収入、保有資産の活用、特定目的金の活用方針の見直し、共創による「行政の種ぐ力」の推進など)

## 飯田市と高岡市の数値比較(決算カード)から

|               | R4 飯田市    | R4 高岡市    | H29 高岡市   |
|---------------|-----------|-----------|-----------|
| 人口 (R2・H27国調) | 98,164人   | 166,393人  | 172,125人  |
| 標準財政規模        | 27,555百万円 | 40,005百万円 | 38,438百万円 |
| 実質公債費比率       | 7.6       | 12.0      | 16.2      |
| 将来負担比率        | 8.8       | 105.1     | 180.3     |
| 積立金 (基金残高)    | 129億円     | 88億円      | 36億円      |
| 地方債残高         | 388億円     | 940億円     | 1,129億円   |
| 債務負担行為額       | 51億円      | 102億円     | 116億円     |

## 南砺で暮らませんか！

南砺市市民協働部 南砺で暮らしません課 に学ぶ

【背景】●年間約720人のペースで進む人口減少

|        | 2010年              | 2023年              | 13年間の変化  |
|--------|--------------------|--------------------|----------|
| 総人口    | 54,724人            | 45,360人            | ▲ 9,364人 |
| 年少人口   | 6,435人<br>(11.8%)  | 4,460人<br>( 9.8%)  | ▲ 1,975人 |
| 生産年齢人口 | 31,230人<br>(57.1%) | 22,538人<br>(49.7%) | ▲ 8,692人 |
| 老年人口   | 17,018人<br>(31.1%) | 18,322人<br>(40.4%) | + 1,304人 |

●人口ビジョン：2060年目標人口30,000人より低水準の下降曲線の推移

●若者の転出増・転出超過現象：特に20～39歳女性の転出:変化率-50%以上

消滅可能性自治体

## 南砺市総合計画（令和4年度評価表）

### 将来像

誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ

第2次南砺市総合計画の3年目の進捗状況は、KPIは令和4年度目標値を達成したものと令和3年度実績から前進したものを含めると58%、個別事業では69%となった。全体的には概ね良好な結果を示しているものの、KPIと個別事業で後退が見られた一部では、取り組みが認知されていない、制度の周知が不足しているといったことが明らかとなった。

政策ごとの指標（P5～P8）に関しては、3年目の時点で全13項目のうち「健康寿命（女性）」「域内消費額」「平均所得」の3項目で目標値を達成した。しかし、これまでに移住・定住支援や婚活支援、子育て支援施策など、人口減少対策については、全国に先駆けた取組を進めてきているが、「子育て世帯の転入数」や「年間出生数」、「若者の純移動率」といった、人口減少に関連する指標は目標値と大きく乖離しており、厳しい状況となっている。

この評価・検証結果を踏まえ、総合計画の目標達成と、4つの目指すべきまちの姿をとおして「まちの将来像」を実現するため、情報発信の重要性を認識し、全職員がシティプロモーター（まちの広報担当者）であるという意識のもと、対象に応じた効果的な情報発信や、関連部門との連携を強化した戦略的なシティプロモーションに民間活力も導入しながら取り組み、必要としている人に必要な情報が確実に伝わるよう努める。

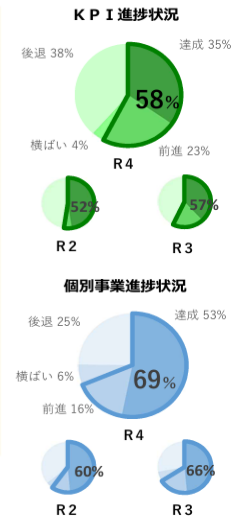
また、課題となる人口減少への対策としては、若い世代の人口が出生数と将来人口に大きく影響を与えることから、若者と子育て世帯の定住や転入を増やすことが重要であり、経済的な支援だけでなく、雇用の確保や女性が働きたいと思える環境の整備に取り組み、若者が戻り、住み続ける価値のある場所として選ばれるまちの実現を目指す。

| 四つの柱 | 総合評価              |    |    |
|------|-------------------|----|----|
|      | R4                | R3 | R2 |
|      | I 未来に希望がもてるまち     | C  | C  |
|      | II 多様な幸せを実感できるまち  | C  | D  |
|      | III 心豊かな暮らしができるまち | C  | D  |
|      | IV 皆で考えともに行動するまち  | C  | C  |

### 進捗状況

【達成】 実績値が令和4年度目標値を上回り、達成した状態  
 【前進】 実績値が目標値に近づく、前年度（令和3年度）実績から前進している状態  
 【横ばい】 実績値が前年度（令和3年度）実績から変動が見られない状態  
 【後退】 実績値が前年度（令和3年度）の数値より後退している状態

※割合（%）は前年度の数値が無いものを除く【達成】～【後退】の小計を分母にしています



## ●Ⅲ 心豊かな暮らしができるまち

### 【目標】暮らしやすさの実感の向上

### 総合評価 C

| 政策評価 (P23～P32) | 政策                    | 指標      | 指標の説明                                     | 目標値 (R6) | R4実績値 (R3からの進捗) | 目標との差 |
|----------------|-----------------------|---------|-------------------------------------------|----------|-----------------|-------|
| C              | (1)若者が住みたくなる魅力づくり     | 若者の純移動率 | 国勢調査人口+各年の社会増減25～29歳人口(x年)/20～24歳人口(x-5年) | 109.8%   | 96.5%(▲6.0%)    | 13.3% |
| C              | (2)誰もが暮らしを楽しめる生活環境の充実 | 域内消費額   | 地域経済循環分析「地域経済循環図」より                       | 1,745億円  | 1,881億円(▲26億円)  | 達成    |
| D              | (3)地域の活力を支える産業の発展     | 平均所得    | 総所得金額等/所得割納税義務者数                          | 262万円    | 278万円(+5万円)     | 達成    |

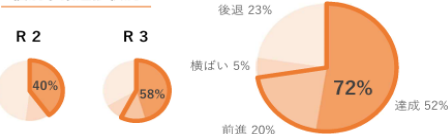
### KPI

|               |
|---------------|
| 住宅着工件数        |
| 貢献活動数         |
| 市内で買物をする市民の割合 |
| 素材生産量（呉西6市）   |
| 新規雇用者数        |
| 市営バス利用者数      |
| 製造品出荷額        |
| 外国人延べ宿泊者数     |
| 農業産出額         |

### 進捗状況

|    |
|----|
| 達成 |
| 前進 |
| 後退 |

### 個別事業進捗状況



### 取り組み評価

若者から選ばれるまちの実現にむけ、定住に必要な3つの要素と考えられている「居（コミュニティ）・職（仕事）・住（住む場所）」の確保を軸として事業に取り組んだ。「若者が住みたくなる魅力づくり」の個別事業成果の進捗が改善し、政策評価が昨年を上昇したが、「地域の活力を支える産業の発展」の個別事業の進捗が後退したことから、政策評価が下降し、総合評価は昨年と同様のC評価となった。

- 求人活動支援事業や「なんとジョブ」サイト運営など、若者の希望にあう就業への支援に取り組んだが、新規雇用者数は前年から前進したものの目標値に届かず、引き続き企業や関係機関との連携を強化していく必要がある。
- 空き家を活用した売店・飲食店が開店し、消費拡大に貢献しているが、市営バスのデマンド実証運行で期待した成果を得ることができなかった。
- 平均所得は計画策定時より年々増加しているものの、製造品出荷額や農業産出額は減少傾向にあり目標値に届いていないことから、中長期的に取り組む事業の方向性を出していく必要がある。

### 今後の方針

- 若者・女性が活躍できる魅力ある企業の増加を図り、市内就業の促進を図るため、働き方改革や魅力発信に繋がる取組を支援するなど企業立地戦略を強力に推し進めることで、若者・女性に選ばれるまちの実現に向けて取り組む。
- 持続可能な公共交通体系の維持継続のため、利用促進の呼びかけを継続的に行いつつ、バス停の増設や市営バスのデマンド運行、定額タクシー等、市民の声を収集しながら、持続可能な交通体系となるよう取り組む。
- 不安定な国際情勢等に起因し、農業の生産コストの増大を招いている現状を踏まえ、農業所得を安定的に確保するために、経費の削減や本市農業の中核を担う集落営農体制の維持・発展等に向けた支援を行っていく。



### 3.南砺市の「働き方・ジェンダーギャップ解消」への取り組み

#### 職 場

**働き方改革を推進！**  
長時間労働の削減・テ  
レワーク・積極的な休  
暇取得等により  
男性も女性も個性と能  
力を発揮しやすい職場  
づくりを！



20.0%

#### 家 庭

家族の誰かに家事・育  
児・介護等が偏ってい  
ませんか？

**分担を見直し、家族み  
んなで積極的に協力し  
ましょう！**



36.0%

#### 地 域

性別や年齢にかかわら  
ず主体的に地域活動に  
参加！

**男女双方の視点を活か  
して協力しながら活動  
しましょう！**



20.2%

若者・子育て世代向けアンケート

Q：性別による不平等感を感じるか？

#### 問題点は？

若者・子育て世代向けアンケートより

|                       | 職 場                                                                                                                                               | 家 庭                                                                                                                                                                                | 地 域                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 不<br>平<br>等<br>感      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事内容が男女で無意識に決めつけられている</li> <li>・女性は定時、男性は残業が当たり前</li> <li>・子供の事で男性が休もうとすると一言ある「奥さんをお願いしたら」…</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事育児は女性がやるものという固定的観念が根強い</li> <li>・親世代からの「嫁だから〇〇すべき」圧が強い</li> <li>・共働きなのに家事育児の負担は女性が背負っている</li> <li>・年配者からの男尊女卑発言が多い</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・婦人会などの団体に強制的に名前を入れられる</li> <li>・公共施設の清掃を女性団体だけで実施する必要があるのか</li> <li>・男だから〇〇しろ、地区団体(消防団・青壮年会)入会の強制</li> <li>・女性だから男性だからによる仕事の偏りがある</li> <li>・責任ある立場に女性が少ない</li> </ul> |
| 必<br>要<br>な<br>変<br>化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の事情での休みや早退ができる体制と風土醸成が必要</li> <li>・性別による思い込みでなく、個人の能力が客観的に評価される環境が必要</li> <li>・古い考えの管理職は処分する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のお世話に父親が自ら関わってくれる環境が望ましい</li> <li>・男性同士で家庭の話を知る機会を増やす</li> <li>・年配者に対する男女平等を理解してもらう機会を増やす</li> <li>・家庭内の女性が急に亡くなった時の事を想像し話し合う</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上層部・高齢者の意識の改善が必要</li> <li>・女性目線で・男性目線による一緒の話し合いが必要</li> <li>・無駄な活動を減らす、若い人への負担が年々増加してきている</li> <li>・地域の人の意識改革が必要</li> </ul>                                          |

**問題点を可視化して共有することが大切で積極的に場を提供している**

## 地域での取り組み 「ジェンダーギャップ+ジェネレーションギャップ解消に向けて」

地域づくり協議会と連携し、地域の社会規範を見直し男女格差是正に取り組む

### 【背景】

- ◆ 若年人口、特に若年女性人口の流出
- ◆ 地域コミュニティの高齢化と根深い性別役割分担意識
- ◆ 地域（地域づくり協議会／自治会）の多くが（高齢）男性、地域における意識変革が起きづらい

### ●2023年度～地域づくり協議会幹部向けにワークショップを実施

#### ➢ 地域向けセミナー

「行政が中心になって女性活躍・ジェンダーギャップを解消していく方策をつくっているところがある（兵庫県豊岡市）ので、取り入れて行きたい。」などの意見も。



#### ➢ 31地域づくり協議会 全体会議

地域づくり協議会トップが「地域におけるジェンダー問題の解決に取り組む」と宣言



### ●2024年度～男女格差是正に向けて、ジェンダーギャップ解消対策部署を設置

2024年4月より“ジェンダーギャップ対策・婚活若者係”を設置。経済、政治、地域など、あらゆる分野における意思決定層に女性を増やすために、女性向けのエンパワメントプログラムを開講する。

ご清聴ありがとうございました

